

## コロナ禍の世界

横浜市駐在員レポート

⑬

ニューヨーク市は、社会経済活動再開の最終段階に入った。だが、身の回りと先行きへの不安はまだ拭い切れない。

ビジネス街に人が戻らない。再開後、15万人から30万人が仕事に復帰すると予想されたが、ロックダウン以前のように戻っていない。車の通行もホットドックの屋台も少ないままだ。来年までオフィスは開けないという銀行や会計事務所の話も聞かれる。

観光客も減る。ニューヨーク州は感染が広がる他州からの来訪者に14日間の自主隔離を義務付けている。対象は全米50州のうちの31州。国内外からの観光客は

「t i B i k e」の利用も増えている。片や、銃犯罪が増した。同市は数十年、国内で最も安全な大都市と言われてきた。だが、独立記念日の週末には64件が報告された。1月から7月12日までの間、前年394件だった銃犯罪は今年、634件に上った。

ニューヨークはこれまで、経済破綻や犯罪まん延など、危機を幾度となく乗り越えてきた。2008年の金融危機を切り抜けたことは記憶に新しい。コロナ禍は今までと違い、完全に元に戻れない。そう予測しながらも、今回もニューヨークのサバイバルが期待される。

（横浜市国際局グローバルネットワーク担当理事／米州事務所長・関山 誠）

# 期待されるサバイバル

想されたが、ロックダウン以前のように戻っていない。車の通行もホットドックの屋台も少ないままだ。来年までオフィスは開けないという銀行や会計事務所の話も聞かれる。

観光客も減る。ニューヨーク州は感染が広がる他州からの来訪者に14日間の自主隔離を義務付けている。対象は全米50州のうちの31州。国内外からの観光客は

## ニューヨーク



利用が増えているニューヨーク市の自転車シェアシステム「C i t i B i k e」の専用駐輪場  
＝5日、タイムズスクエア近く